

第5次幸手市総合振興計画後期基本計画策定のための
職員アンケート調査

結果報告書
(概要版)

平成25年3月

幸 手 市

目次

- 第 1 章 調査の目的と概要 1
 - 1 調査の目的 2
 - 2 調査の概要と回収状況 2
 - 3 報告書を見る際の注意事項 2

- 第 2 章 調査結果 3
 - 1 結果概要 4
 - 2 結果詳細 6

第 1 章 調査の目的と概要

1 調査の目的

- 本調査は、第5次幸手市総合振興計画後期基本計画の策定にあたり、全庁をあげて職員自らが行政運営を点検し後期基本計画を策定していくために、職員の市の現状に対する評価や市民との協働、総合振興計画に対する意識等を把握し、後期基本計画策定の基礎資料とすることを目的として実施しました。

2 調査の概要と回収状況

【調査の概要等】

調査対象	幸手市に勤務する職員 432人
回収数	364人
回収率	84.3%
調査方法	庁内配布・回収
調査期間	平成24年12月3日～12月21日

3 報告書を見る際の注意事項

- 図表中の「N」（＝Number）は、設問への回答者数を示しています。
- 調査結果の比率は、その設問の回答者数を基数として、小数点以下第2位を四捨五入して算出し、小数点第1位までを表示しています。したがって、回答者比率の合計は必ずしも100%にならない場合があります。
- 複数回答形式の設問については、その設問の回答者数を基数として比率を算出しています。したがって、すべての回答比率の合計が100%を超えることがあります。また、複数回答のクロス集計の場合には、縦と横の合計は「回答者数」を示し、パーセントの母数を示しています。そのため、数字を足しあげた数とは一致しません。
- 選択肢の語句が長い場合、本文や図表中では省略した表現を用いている場合があります。
- クロス分析において、回答者数の少ない属性についてのコメントは控えている場合もあります。また、1位を白文字、2位を太文字で表現していますが、1位が複数ある場合には、2位の表記は行いません。
- 見出しについては、「その他」「無回答」を除いた上での「1位」についてコメントをしています。

第 2 章 調査結果

1 結果概要

(1) 幸手市の住みやすさについて

- ・幸手市の住みやすさは、職員の意見では「どちらかといえば住みよい」が 44.2%と最も多く、市民意識調査とほとんど差はありません。
- ・なお、29 歳代以下の職員では、「住みよい」と評価している職員の割合が 21.1%と最も多くなっており、低い年代の職員は市の住みやすさを評価している点が特徴です。
- ・住みよい理由としては、「住み慣れているから」が 73.5%と最も多く、住みにくい理由は「通勤・通学などの交通の便が悪いから」が 62.0%と最も多くなっています。

(2) 定住意向について

- ・今後の定住意向は、「当分は住み続けたい」が 30.5%と最も多く、「永住したい」が 25.3%となっています。
- ・住み続けたい理由としては、「市内に土地を所有しているから」が 67.5%と最も多く、転出したい理由では、「通勤・通学が不便だから」が 44.6%と最も多くなっています。

(3) 市の施策について

- ・他の自治体と比較して優れている点は、「権現堂公園等の観光地がある」が 34.3%と最も多くなっています。また、他の自治体と比較して劣っている点は、「市が財政難である」が 47.8%と最も多くなっています。

(4) 職場の満足度について

- ・職場の満足度については、「ある程度満足している」が 50.3%と最も多く、特に 29 歳以下の職員は、「満足している」と「ある程度満足している」を合わせた割合が 87.8%となっており、職員平均の 71.2%と比較すると高いのが特徴です。
- ・満足している理由としては、「やりがいのある仕事をしているから」が 49.8%と最も多くなっています。性別でみると女性職員は、「働きやすい環境が整っているから」が 47.5%と最も多くなっているのが特徴です。
- ・不満の理由としては、「職員の人数が不足しているから」が 54.1%と最も多くなっています。

(5) 第5次幸手市総合振興計画について

- ・第5次幸手市総合振興計画前期基本計画の周知度については、「あまり知らない」が 38.7%と最も多くなっています。年齢別でみると、30 歳代以下の職員への周知度が低く、職階別では、管理職以外職員への周知度が低くなっています。

- ・総合振興計画の活用度合いについては、「普段の業務の中ではほとんど使わない」が 64.6%と最も多くなっていますが、管理職職員は 42.4%が「まちづくりの方向性を確認する際に使用している」と回答しています。
- ・総合振興計画の項目別の理解度は、「幸手市の将来像」が最も低く、基本構想の重点施策や基本計画の施策については、やや理解度は高くなっていますが、全体的に、低い年代の職員と、管理職以外職員の理解度が低くなっています。
- ・総合振興計画を理解してもらうために必要なことは、「総合振興計画の記載内容をわかりやすいものにする」が 33.2%と最も多くなっていますが、ほぼ同率で「いつでも手にとって総合振興計画の内容が確認できるようにする」「総合振興計画の内容について、所管課主催の説明会等を開催する」の回答も多くなっています。

（６）行財政運営について

- ・行財政改革の効果は、「ある程度効果はあった」が 51.1%と最も多くなっており、「効果があった」とあわせると、おおむね 3 人に 2 人の職員は効果があったと考えています。また、地方分権や行財政改革を進めるために取り組むべきことは、「専門的な職員の育成」が 54.9%と最も多く、人材の育成を重視しています。
- ・行財政運営の改善に向けて必要なことは、「事業の取捨選択を進め、事業の重点化を図る」が 46.7%と最も多くなっています。また、行政に市民が参画することについては、「市民の負担にならない参画機会を増やすべき」が 60.2%と最も多くなっています。
- ・今後、重点的に取り組むべき施策については、「災害に強いまちづくり」が 31.0%と最も多くなっています。

2 結果詳細

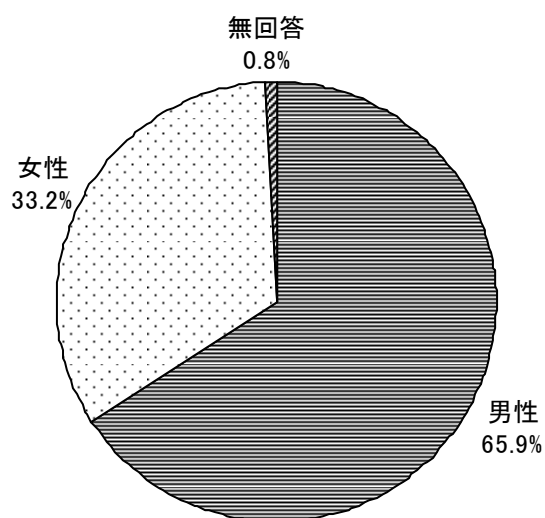
(1) あなたのことについて、おたずねします

問1 あなたの性別は、どちらですか。(1つに○)

「男性」が 65.9%と多い

回答した職員の性別は、「男性」が 65.9%、「女性」が 33.2%となっています。

【全体】



(N=364)

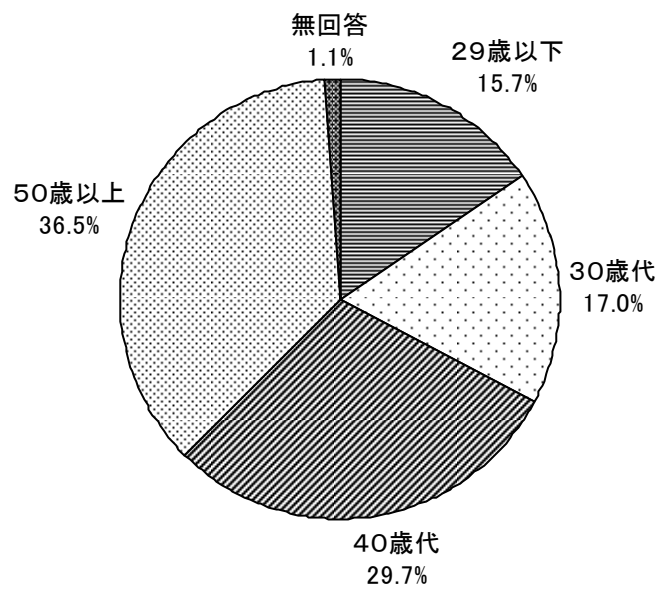
問2 あなたの年齢は、次のどれに該当しますか。

(平成24年12月1日現在の年齢をお答えください。)(1つに○)

「50歳以上」が36.5%と多い

年齢は、「50歳以上」が36.5%と最も多く、次いで「40歳代」が29.7%の順となっています。

【全体】



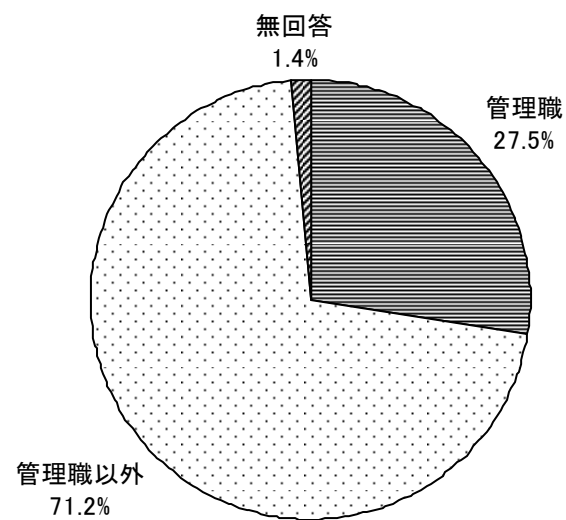
(N=364)

問3 あなたは管理職ですか。(1つに○)

「管理職以外」が 71.2%

管理職かどうかについては、「管理職以外」が 71.2%であるのに対して、「管理職」は 27.5%となっています。

【全体】



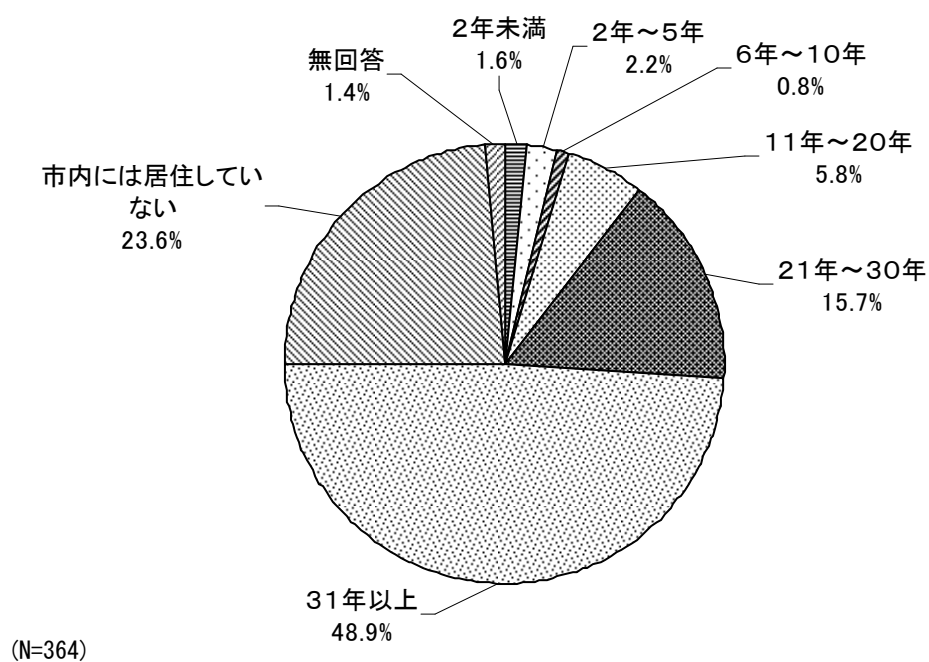
(N=364)

問4 幸手市内に通算して何年ぐらいお住まいですか。(1つに○)
(市内で転居している方は、幸手市での居住年数を合算してください。)

居住年数は「31 年以上」が 48.9%

市の居住年数は、「31 年以上」が 48.9%と最も多く、次いで「市内には居住していない」が 23.6%となっています。

【全体】



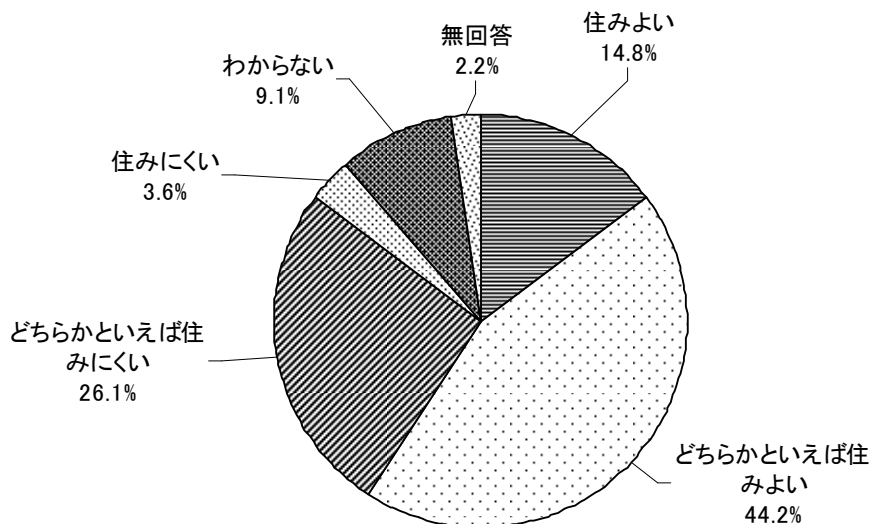
(2) 幸手市の住みやすさについて、おたずねします

問5 幸手市は住みやすいと思いますか。(市外居住の方も回答してください)(1つに○)

「どちらかといえば住みよい」が44.2%

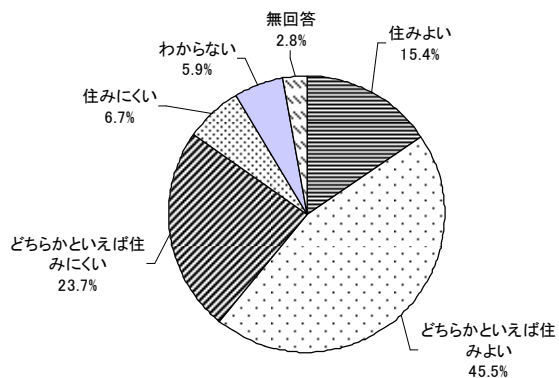
幸手市の住みやすさについては、「どちらかといえば住みよい」が44.2%と最も多く、次いで「どちらかといえば住みにくい」が26.1%となっています。市民意識調査と比較すると、ほとんど差は見られません。

【全体】



(N=364)

【参考 市民意識調査】



(N=940)

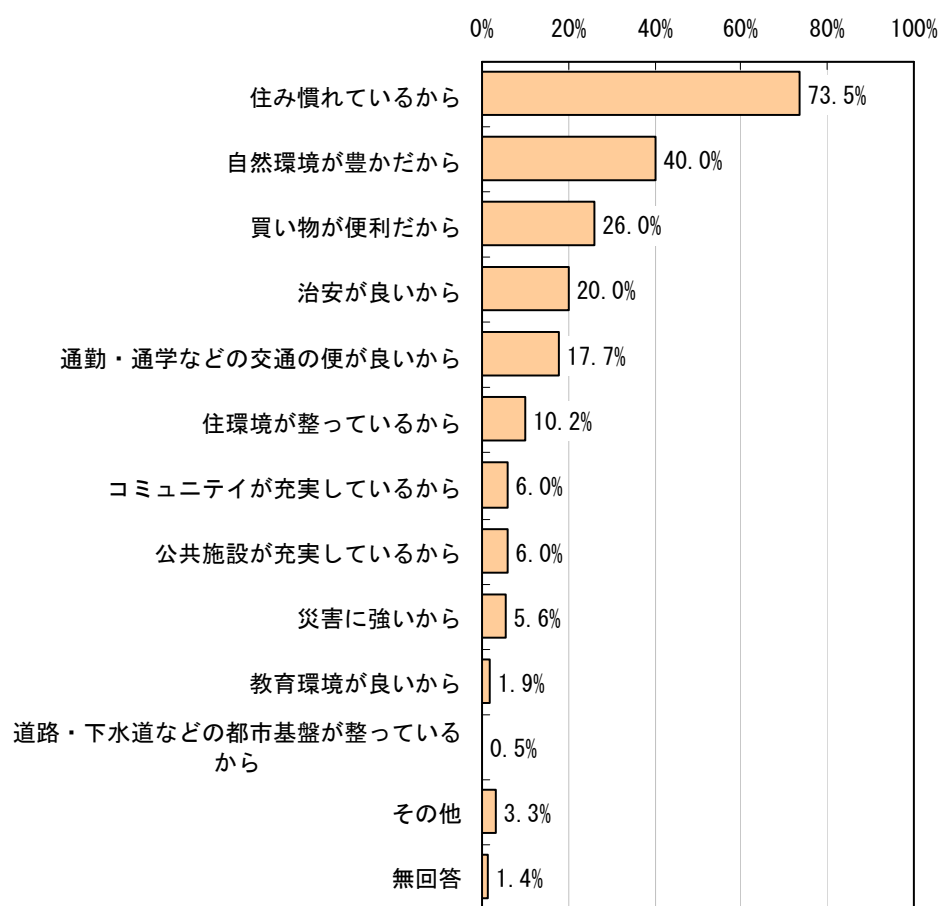
問6 問5で「1」「2」に回答した方におたずねします。

「住みよい」と考える理由は何ですか。(3つまで○)

「住み慣れているから」が73.5%

住みよい理由としては、「住み慣れているから」が73.5%と最も多く、次いで「自然環境が豊かだから」が40.0%の順となっています。市民意識調査の結果と比較すると、上位3項目は同じ内容となっています。

【全体】



(N=215)

【参考 市民意識調査 上位3項目】

住み慣れているから	74.5%
買い物が便利だから	44.2%
自然環境が豊かだから	33.5%

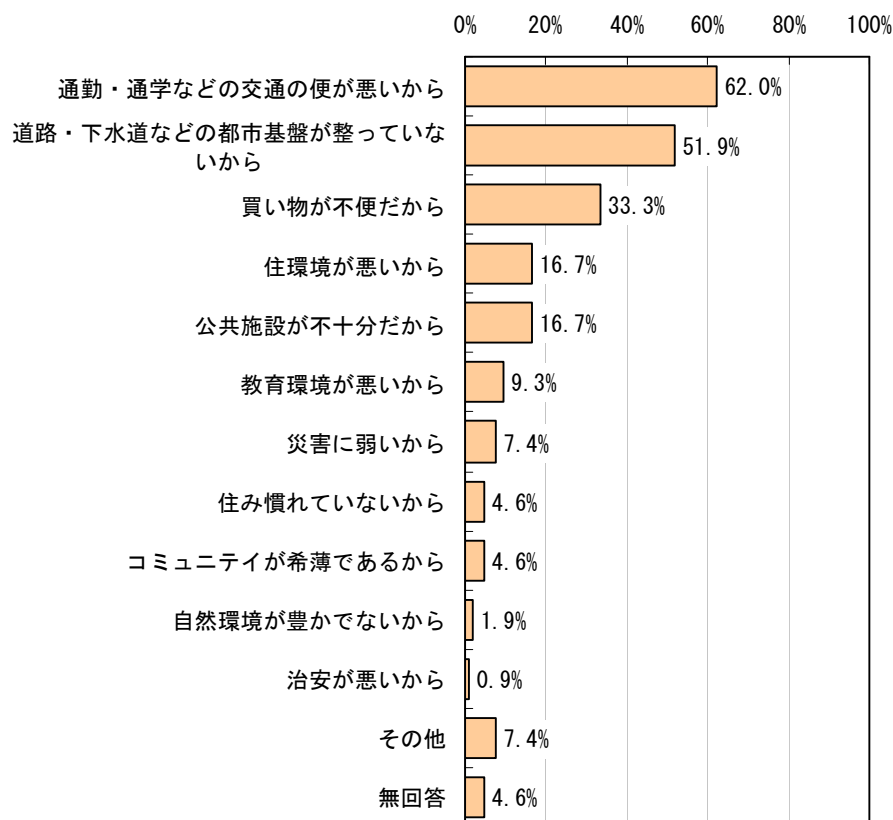
問7 問5で「3」「4」に回答した方におたずねします。
「住みにくい」と考える理由は何ですか。（3つまで○）

「通勤・通学などの交通の便が悪いから」が 62.0%

住みにくい理由としては、「通勤・通学などの交通の便が悪いから」が 62.0%と最も多く、次いで「道路・下水道などの都市基盤が整っていないから」が 51.9%となっています。市民意識調査と比較すると、職員アンケートでは「通勤・通学などの交通の便が悪いから」が 1 位となっているのが特徴です。

年齢別でみると、29 歳以下の職員は「買い物が不便だから」が 57.1%と最も多く回答しています。

【全体】



(N=108)

【参考 市民意識調査 上位3項目】

道路・下水道などの都市基盤が整っていないから	52.8%
通勤・通学などの交通の便が悪いから	41.3%
買い物が不便だから	36.0%

（３）定住意向について、おたずねします

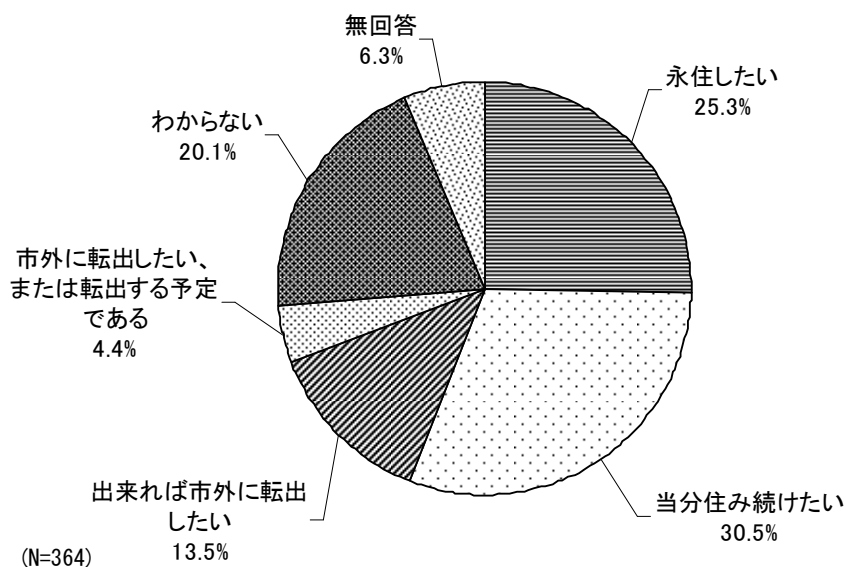
問８ 今後も幸手市に住み続けたいと思いますか。
（市外居住の方も回答してください）（１つに○）

「当分は住み続けたい」が 30.5%

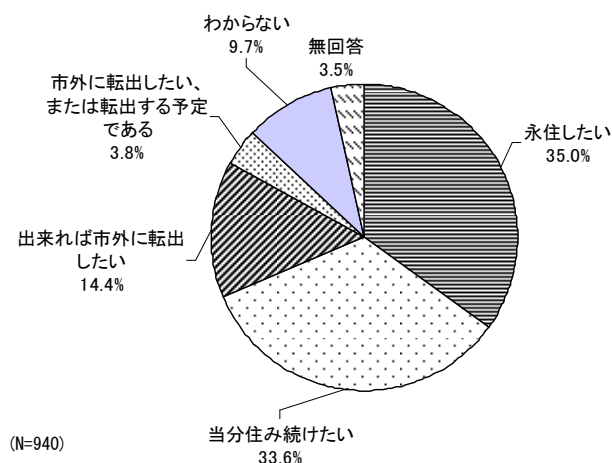
今後の定住意向については、「当分住み続けたい」が 30.5%と最も多く、次いで「永住したい」が 25.3%となっています。市民意識調査結果と比較すると、「永住したい」職員の割合が約 10 ポイント下回っています。

年齢別でみると、「永住したい」職員の割合は、年代が高くなると増えていくのが特徴となっています。

【全体】



【参考 市民意識調査】



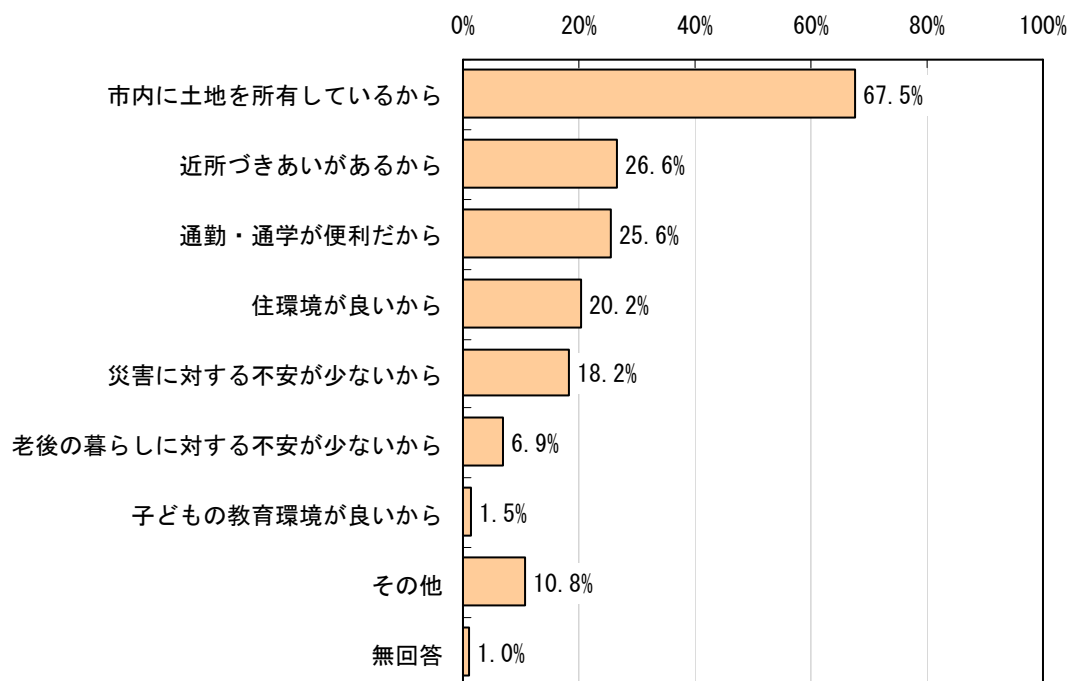
問9 問8で「1」「2」に回答した方におたずねします。
「住み続けたい」と思う理由は何ですか。(3つまで○)

「市内に土地を所有しているから」が67.5%

「市内に土地を所有しているから」が67.5%と最も多く、次いで「近所づきあいがあるから」が26.6%の順となっています。

年齢別にみると、29歳以下の職員は「通勤・通学が便利だから」が53.8%と最も多く回答しています。

【全体】



(N=203)

【参考 市民意識調査 上位3項目】

市内に土地を所有しているから	70.9%
住環境が良いから	29.8%
災害に対する不安が少ないから	27.6%

問 10 問 8 で「3」「4」に回答した方におたずねします。

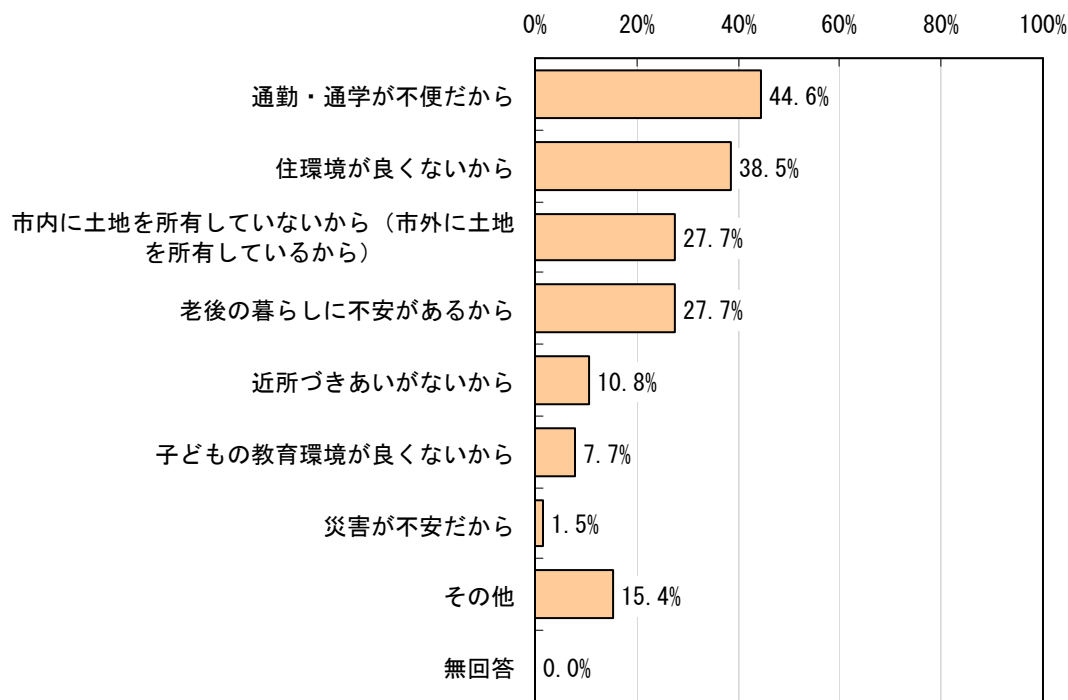
「転出したい」または「転出する予定である」理由は何ですか。（3つまで○）

「通勤・通学が不便だから」が 44.6%

転出したい理由としては、「通勤・通学が不便だから」が 44.6%と最も多く、次いで「住環境が良くないから」が 38.5%の順となっています。市民意識調査と比較すると、職員は「老後の暮らしに不安があるから」の割合が低くなっています。

年齢別にみると、29 歳以下の職員は「市内に土地を所有していないから」が 40.0%と最も回答が多くなっています。

【全体】



(N=65)

【参考 市民意識調査 上位3項目】

老後の暮らしに不安があるから	46.2%
通勤・通学が不便だから	43.3%
住環境が良くないから	35.1%

（４）市の施策について、おたずねします

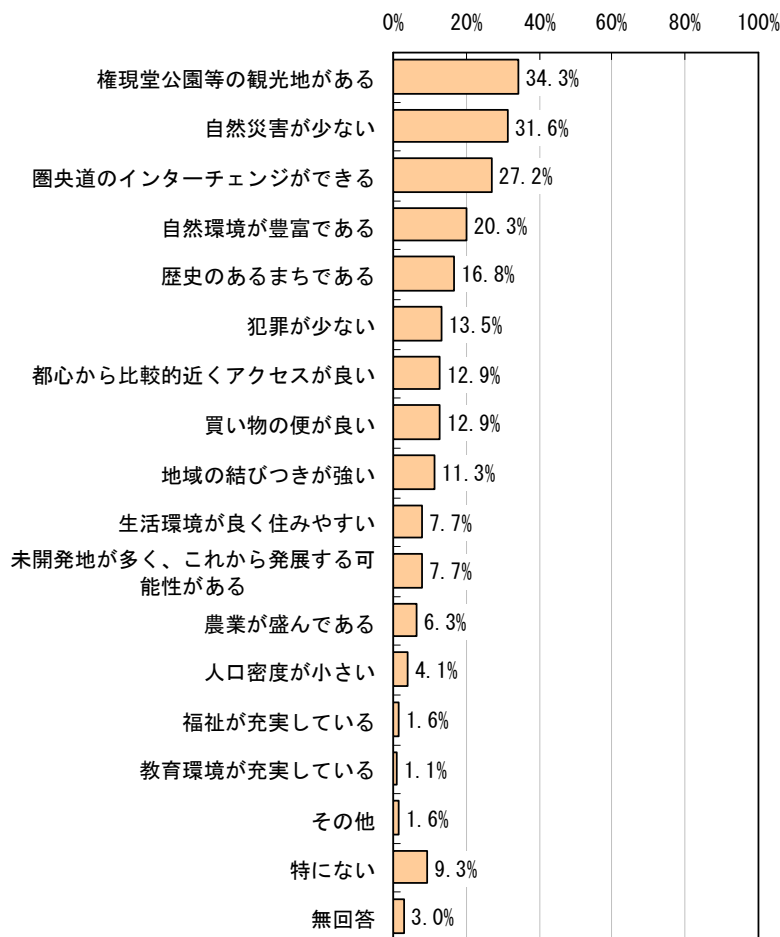
問 11 幸手市が他の自治体と比較して優れていると思う点は何ですか。（３つまで○）

「権現堂公園等の観光地がある」が 34.3%

他の自治体と比較して優れている点は、「権現堂公園等の観光地がある」が 34.3%と最も多く、次いで「自然災害が少ない」が 31.6%となっています。市民意識調査結果と比較すると、1 位から 2 位の項目は同じものとなっています。

50 歳以上や管理職職員は「自然災害が少ない」に最も多く回答しています。

【全体】



(N=364)

【参考 市民意識調査 上位3項目】

自然災害が少ない	35.2%
権現堂公園等の観光地がある	32.7%
買い物の便が良い	25.2%

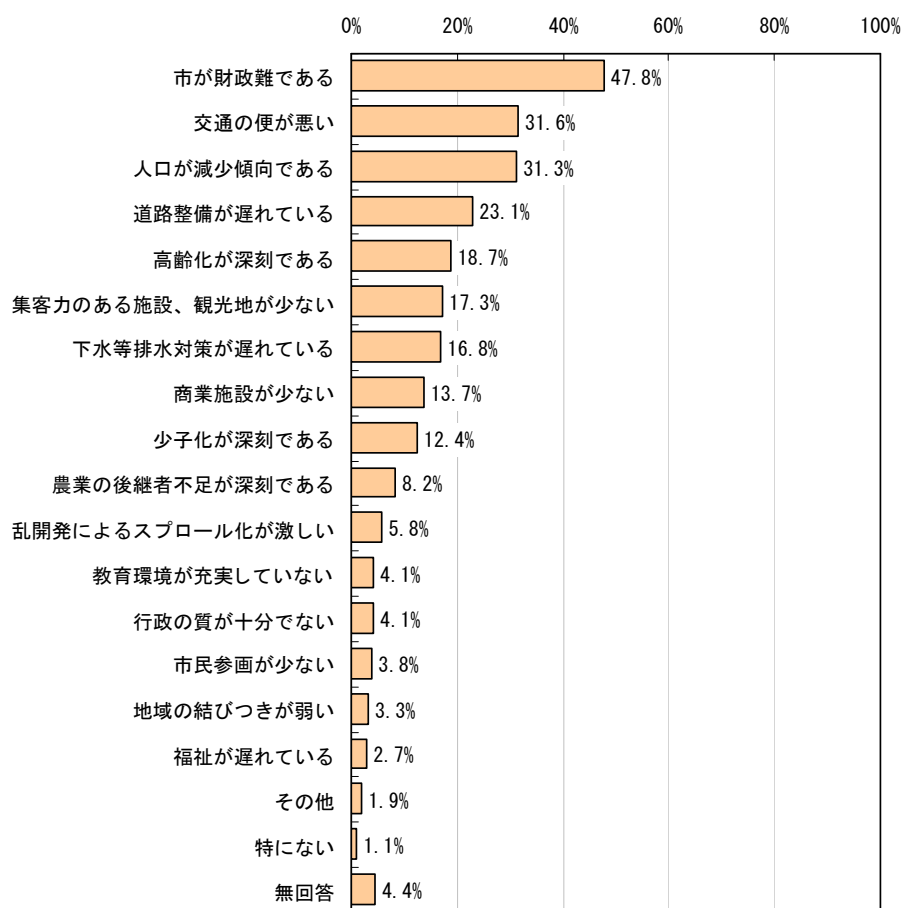
問 12 幸手市が他の自治体と比較して劣っている（マイナスポイントとなる）と思う点は何ですか。（3 つまで○）

「市が財政難である」が 47.8%

他の自治体と比較して劣っている点は、「市が財政難である」が 47.8%と最も多く、次いで「交通の便が悪い」が 31.6%の順となっています。市民意識調査結果と比較すると、1 位から 2 位の項目は同じものとなっています。

管理職職員は「人口が減少傾向である」が 44.0%と最も多くなっています。

【全体】



(N=364)

【参考 市民意識調査 上位3項目】

市が財政難である	45.5%
交通の便が悪い	24.8%
高齢化が深刻である	21.0%

(5) 職場の満足度について、おたずねします

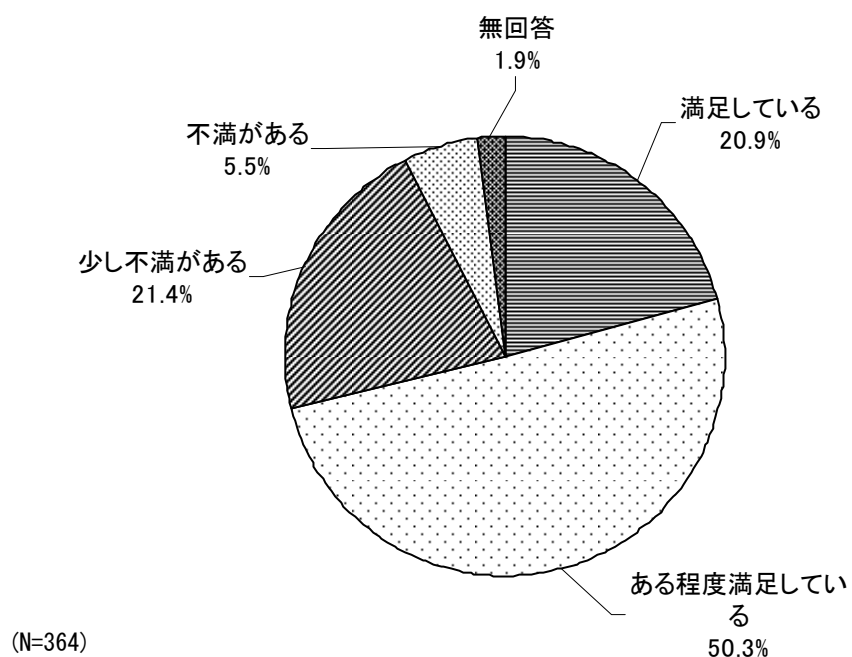
問 13 あなたは、現在の職場に満足していますか。(1つに○)

「ある程度満足している」が 50.3%

現在の職場に満足しているかどうかについては、「ある程度満足している」が 50.3%と最も多く、次いで「少し不満がある」が 21.4%の順となっています。

年齢別でみると、29 歳以下の職員は「満足している」が 43.9%と、他の年齢層と比較して満足度が高くなっているのが特徴です。

【全体】



問 14 問 13 で「1」「2」に回答した方におたずねします。
どのような点に満足していますか。（3つまで○）

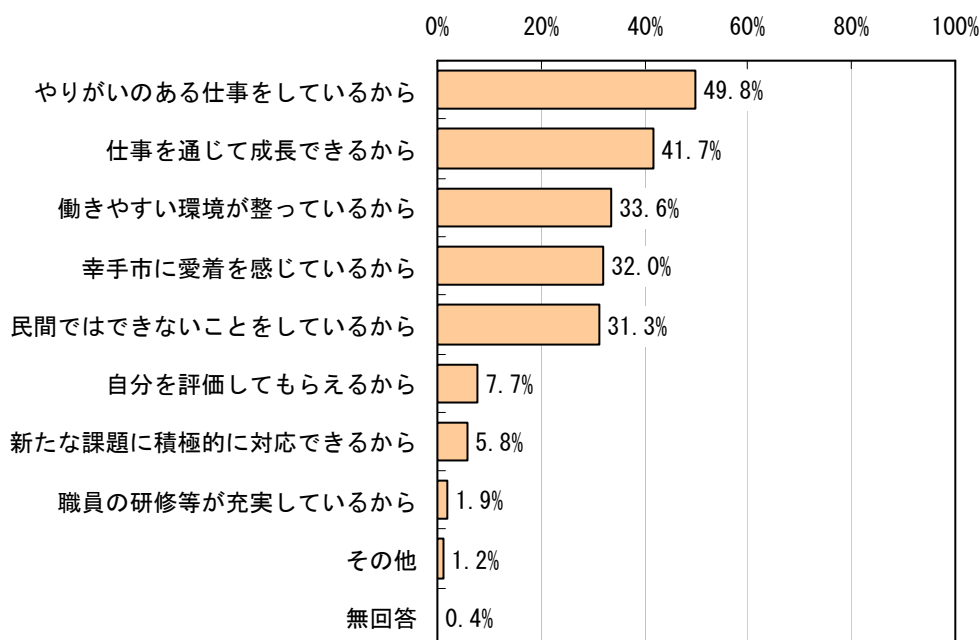
「やりがいのある仕事をしているから」が 49.8%

満足している点としては、「やりがいのある仕事をしているから」が 49.8%と最も多く、次いで「仕事を通じて成長できるから」が 41.7%の順となっています。

性別でみると、女性職員は、「働きやすい環境が整っているから」が 47.5%と最も多くなっています。

年齢別でみると、29 歳以下の職員は「仕事を通じて成長できるから」が 56.0%と、「やりがいのある仕事をしているから」と同率で1 位となっています。

【全体】



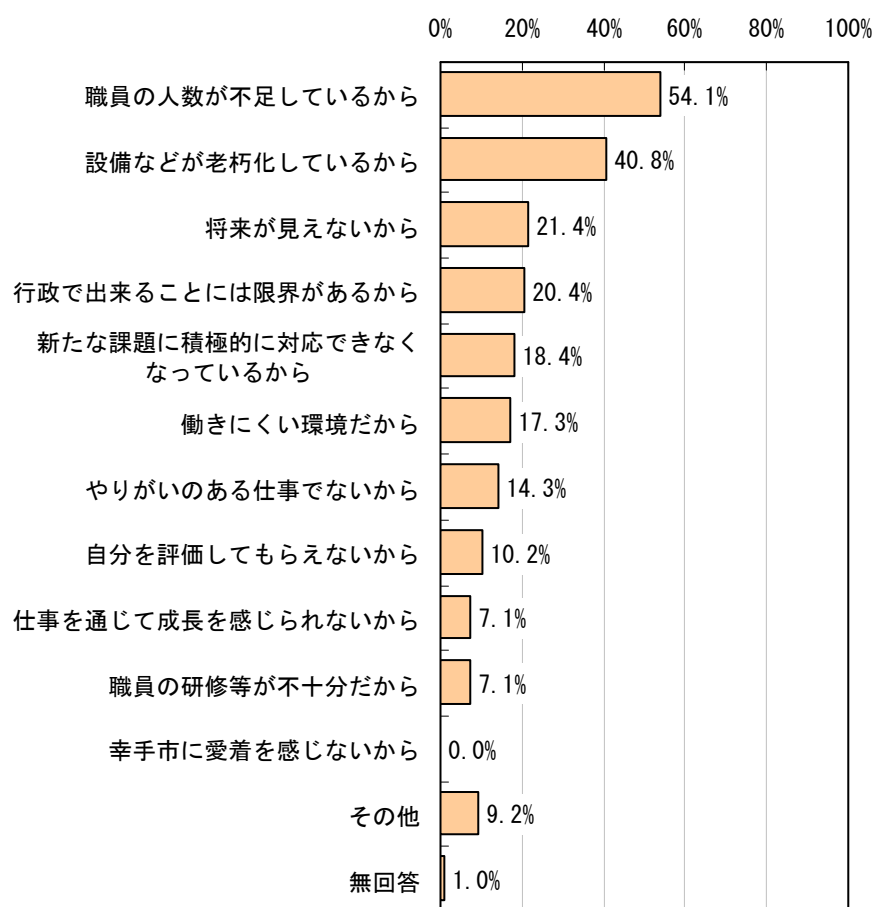
(N=259)

問 15 問 13 で「3」「4」に回答した方におたずねします。
どのような点に不満を感じていますか。(3つまで○)

「職員の人数が不足しているから」が 54.1%

不満の点は、「職員の人数が不足しているから」が 54.1%が最も多く、「設備などが老朽化しているから」が 40.8%の順となっています。

【全体】



(N=98)

（６）第５次幸手市総合振興計画について、おたずねします

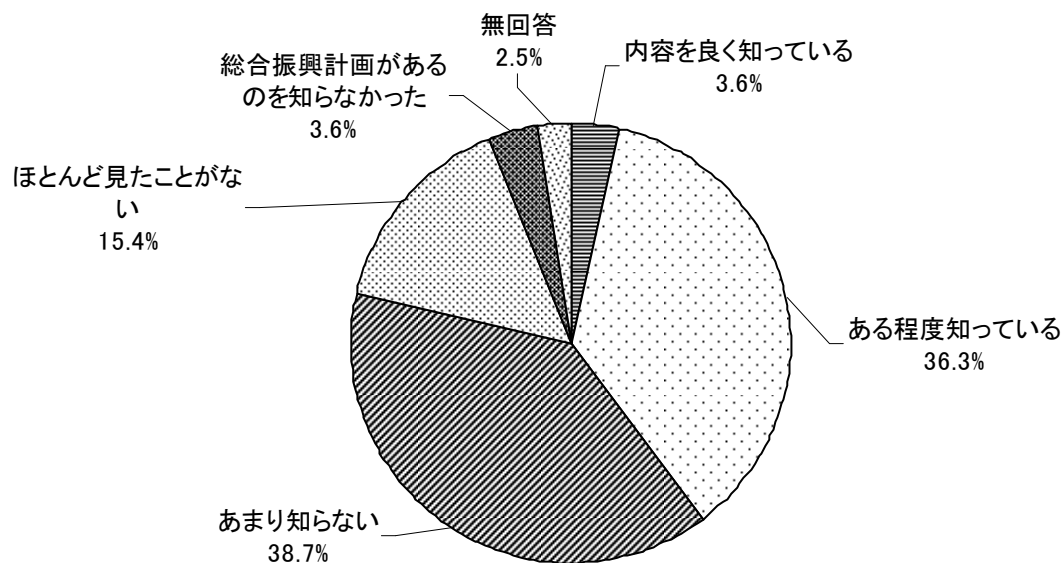
問 16 あなたは、第５次幸手市総合振興計画前期基本計画をどれくらい知っていますか。
（１つに○）

「あまり知らない」が 38.7%

第５次幸手市総合振興計画前期基本計画の周知度については、「あまり知らない」が 38.7%と最も多く、次いで「ある程度知っている」が 36.3%の順となっています。

性別では、女性職員の周知度が低く、年齢別でみると、30 歳代以下の職員の周知度が低く、職階別では、管理職以外職員の周知度が低くなっています。

【全体】



(N=364)

問 17 問 16 で「1」「2」「3」「4」に回答した方におたずねします。

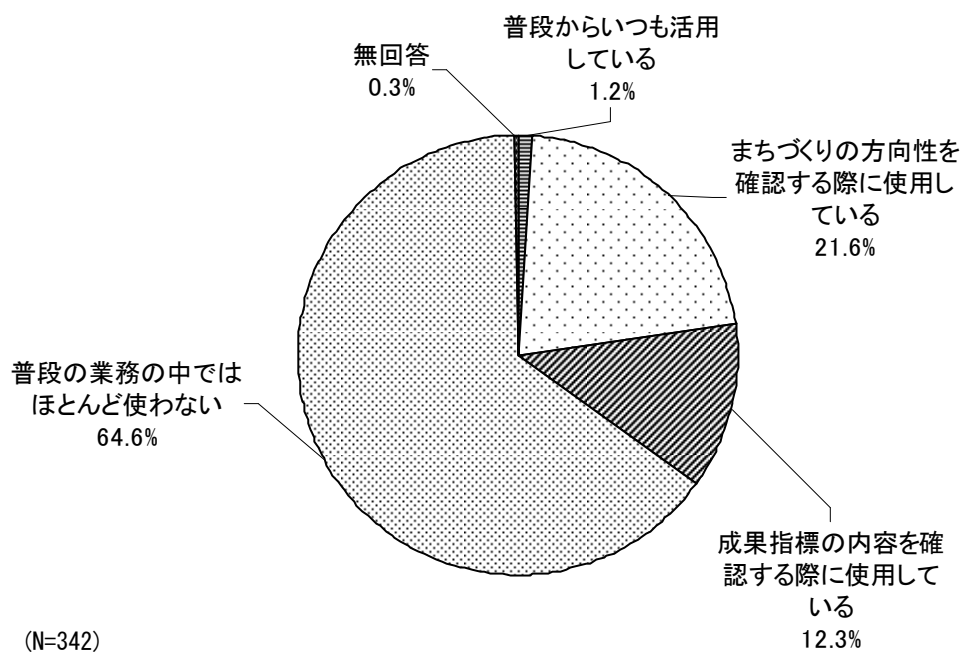
あなたは、普段の業務の中で、第5次幸手市総合振興計画前期基本計画をどれくらい活用していますか。（1つに○）

「普段の業務の中ではほとんど使わない」が 64.6%

普段の業務の中での第5次幸手市総合振興計画前期基本計画の活用度合いについては、「普段の業務の中ではほとんど使わない」が64.6%と最も多く、次いで「まちづくりの方向性を確認する際に使用している」が21.6%となっています。

職階別でみると、管理職職員については「まちづくりの方向性を確認する際に使用している」が42.4%と最も多くなっています。

【全体】



問 18 第5次幸手市総合振興計画前期基本計画の内容について、どれだけ理解していますか。各項目別に回答してください。

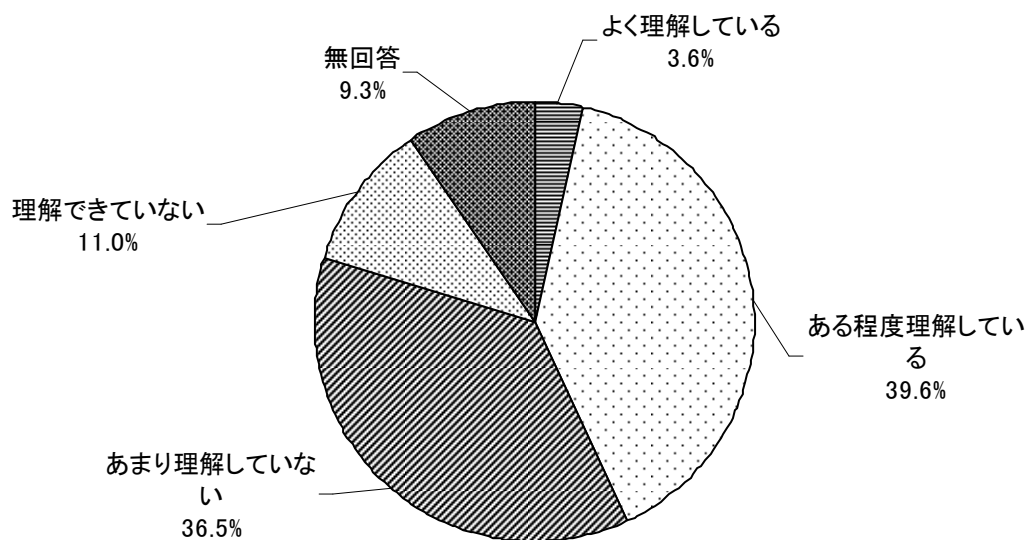
ア 幸手市の将来像

「ある程度理解している」が 39.6%

幸手市の将来像の理解度については、「ある程度理解している」が 39.6%と最も多く、次いで「あまり理解していない」が 36.5%の順となっています。

職階別にみると、管理職職員は「ある程度理解している」が 75.0%と最も多くなっています。

【全体】



(N=364)

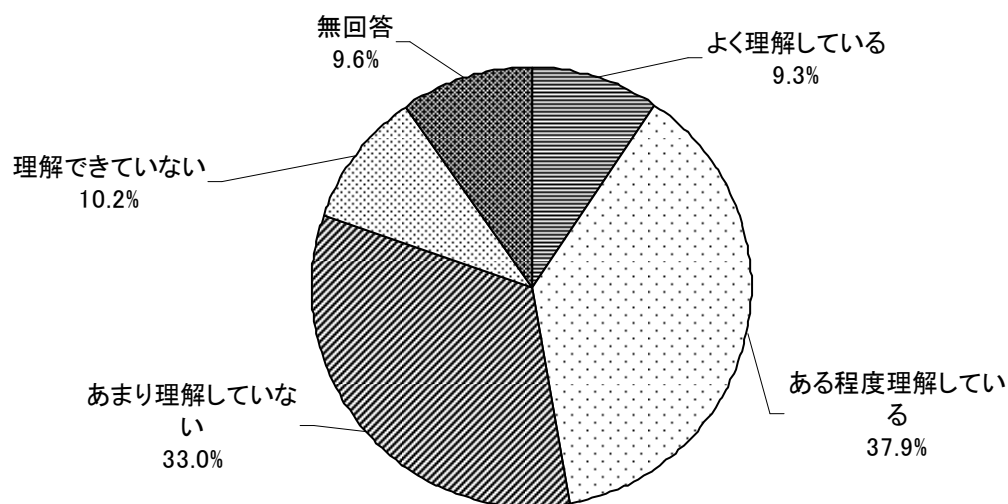
イ 基本構想の重点施策であなたの所属する部署の記載内容

「ある程度理解している」が 37.9%

基本構想の重点施策であなたの所属する部署の記載内容の理解度については、「ある程度理解している」が 37.9%と最も多く、次いで「あまり理解していない」が 33.0%の順となっています。

職階別にみると、管理職職員は「ある程度理解している」が 60.0%と最も多くなっています。

【全体】



(N=364)

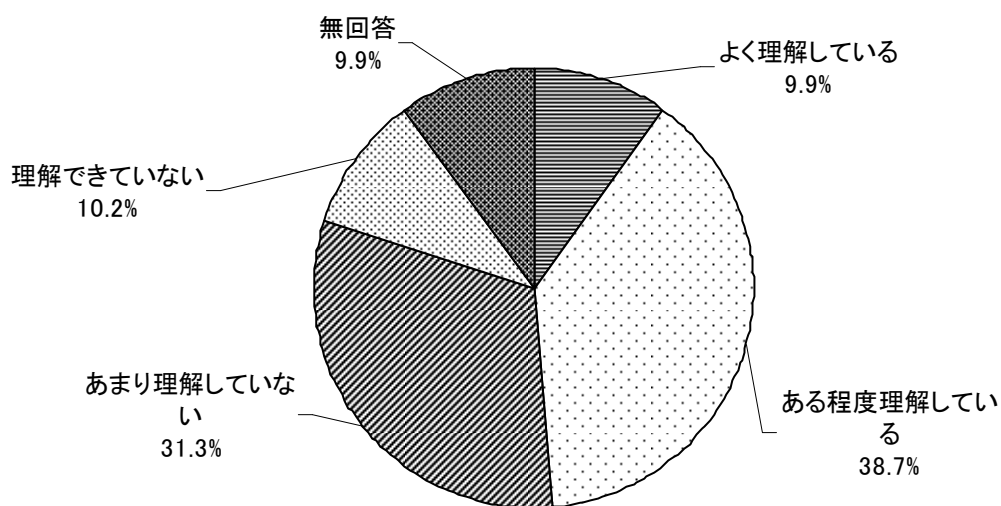
ウ 基本計画で、あなたの所属する部署の記載内容

「ある程度理解している」が 38.7%

基本計画で、当該部署の記載内容の理解度については、「ある程度理解している」が 38.7%と最も多く、次いで「あまり理解していない」が 31.3%の順となっています。

職階別にみると、管理職職員は「ある程度理解している」が 59.0%と最も多くなっています。

【全体】



(N=364)

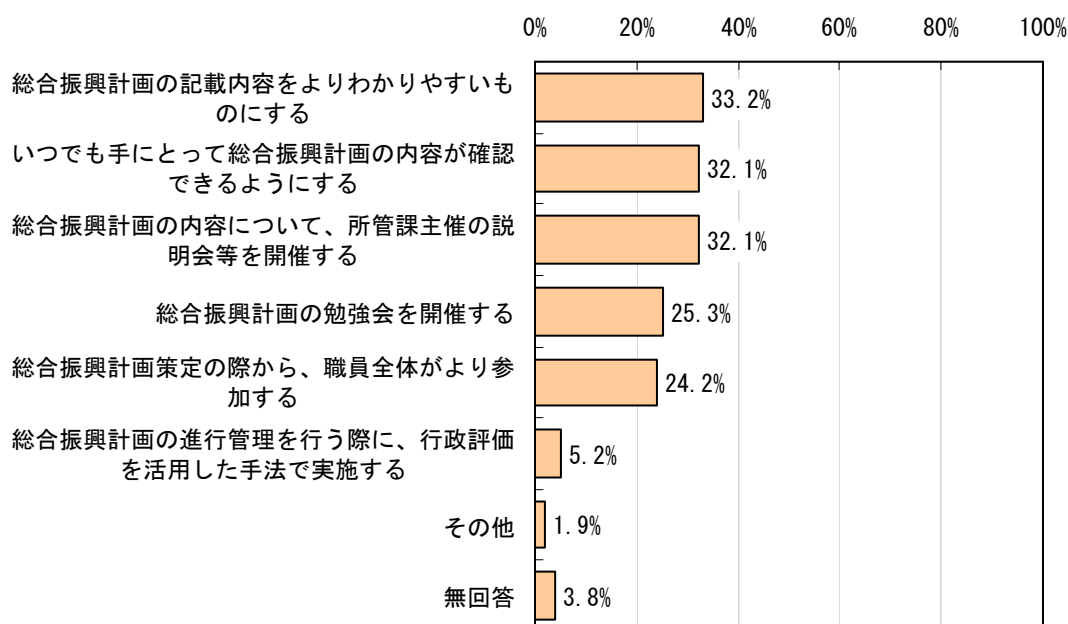
問 19 あなたは、第5次幸手市総合振興計画を職員がより理解するためには、どのようなことが必要と思いますか。（2つまで○）

「総合振興計画の記載内容をわかりやすいものにする」が 33.2%

職員が総合振興計画をより理解できるようにするためには、「総合振興計画の記載内容をわかりやすいものにする」が 33.2%と最も多く、次いで「いつでも手にとって総合振興計画の内容が確認できるようにする」「総合振興計画の内容について、所管課主催の説明会等を開催する」が各々32.1%の順となっています。

職階別にみると、管理職職員は「総合振興計画策定の際から、職員全体がより参加する」が「いつでも手にとって総合振興計画の内容が確認できるようにする」と同率で 1 位となっています。

【全体】



(N=364)

（７）行財政運営について、おたずねします

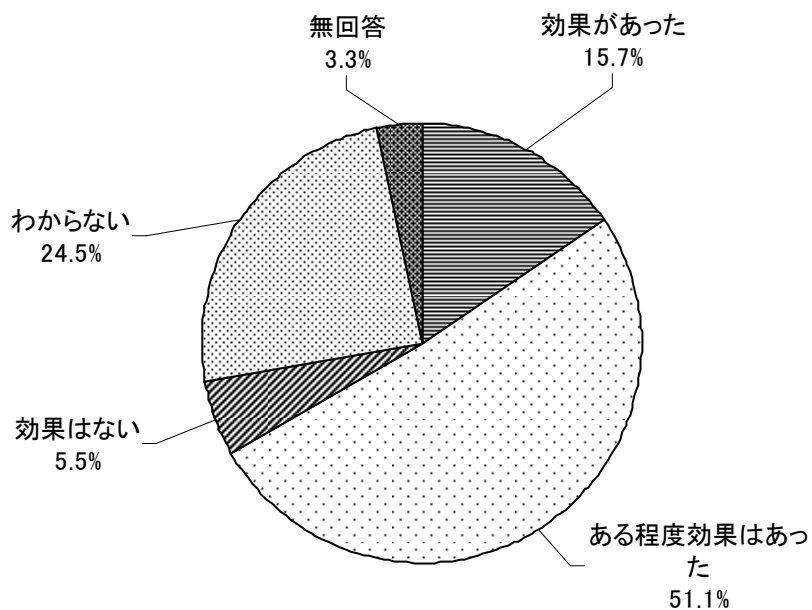
問 20 今までに幸手市が行ってきた行財政改革は、財政の健全化に効果があったと思いますか。（１つに○）

「ある程度効果はあった」が 51.1%

行財政改革の効果については、「ある程度効果はあった」が 51.1%と最も多く、次いで「わからない」が 24.5%の順となっています。

職階別でみると、管理職職員は 90%が「効果があった」または「ある程度効果があった」と回答しています。

【全体】



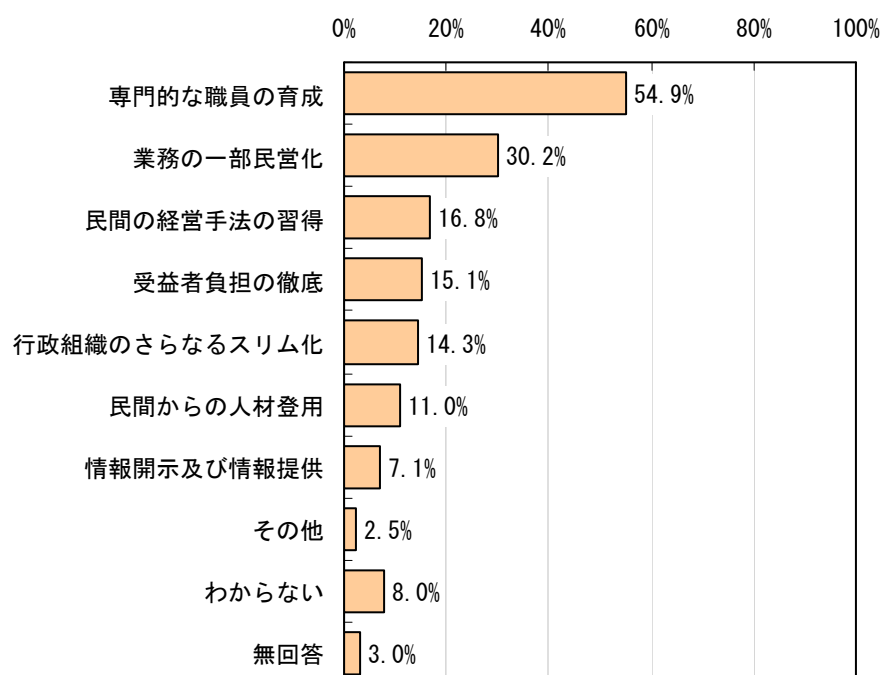
(N=364)

問21 地方分権や行財政改革を進めるために重点的に取り組むべきことは何だと思いませんか。（2つまで○）

「専門的な職員の育成」が54.9%

地方分権や行財政改革を進めるために、重点的に取り組むことは、「専門的な職員の育成」が54.9%と最も多く、次いで「業務の一部民営化」が30.2%の順となっています。

【全体】



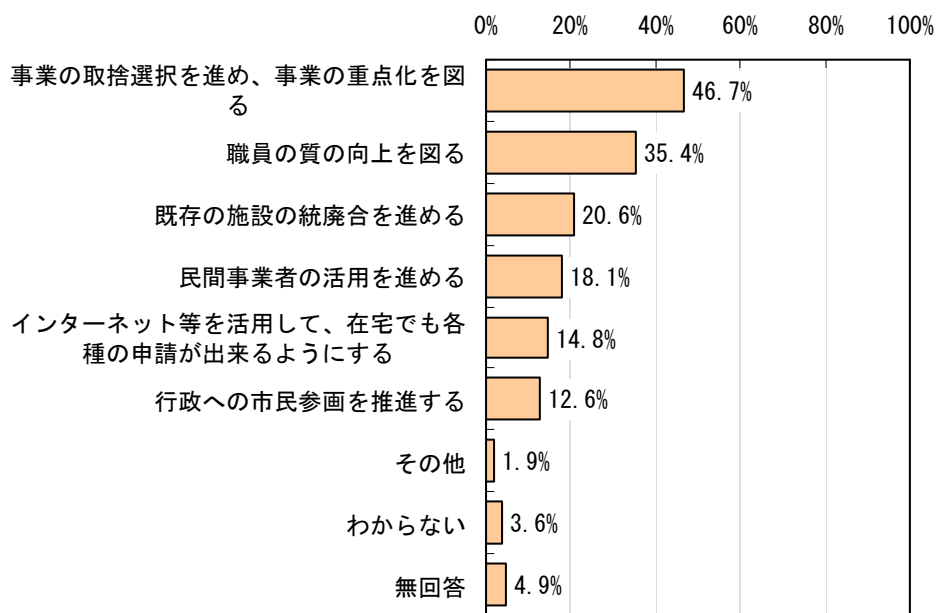
(N=364)

問 22 行財政運営の改善に向けて必要だと思うものは何ですか。(2つまで○)

「事業の取捨選択を進め、事業の重点化を図る」が 46.7%

行財政運営の改善に向けて必要なことは、「事業の取捨選択を進め、事業の重点化を図る」が 46.7%と最も多く、次いで「職員の質の向上を図る」が 35.4%となっています。

【全体】



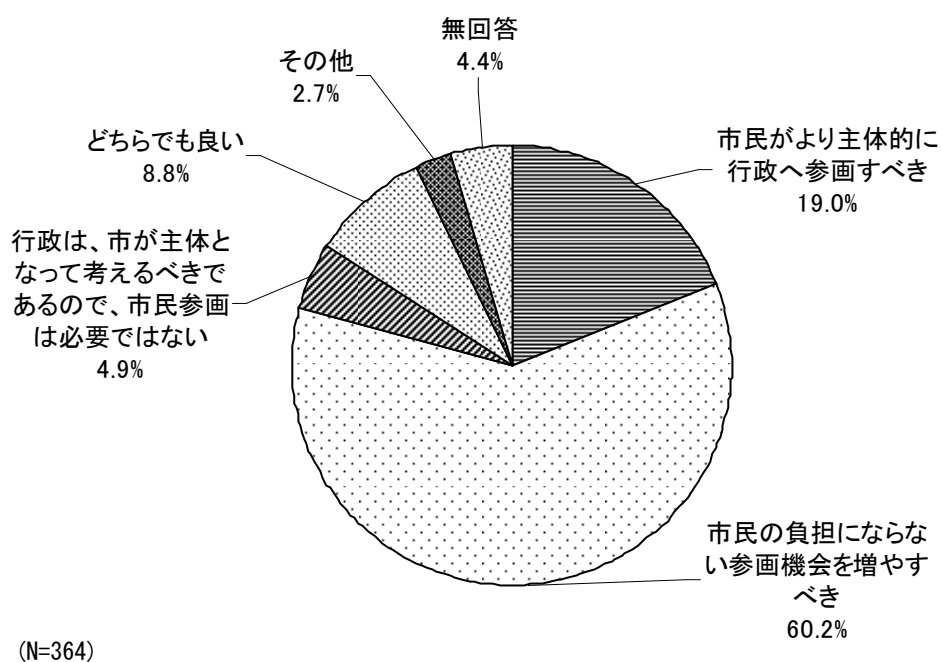
(N=364)

問 23 行政へ市民が参画することについてどのように思いますか。(1つに○)

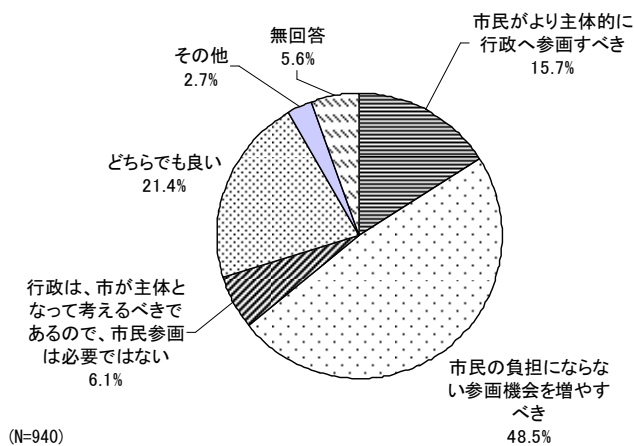
「市民の負担にならない参画機会を増やすべき」が 60.2%

行政へ市民が参加することについては、「市民の負担にならない参画機会を増やすべき」が 60.2%と最も多く、次いで「市民がより主体的に行政へ参画すべき」が 19.0%となっています。市民意識調査の結果と比較すると、「市民の負担にならない参画機会を増やすべき」が 12 ポイント高くなっています。

【全体】



【参考 市民意識調査】



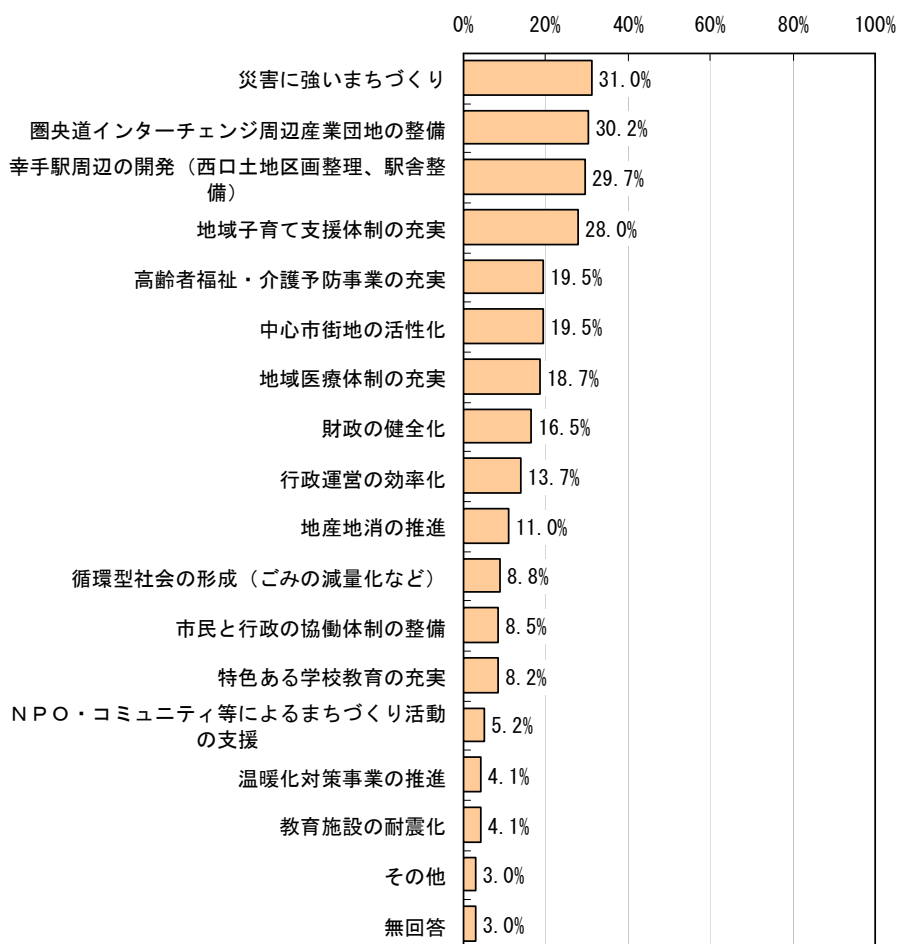
問 24 今後、重点的に取り組むべきと思う施策は何ですか。（3 つまで○）

「災害に強いまちづくり」が 31.0%

重点的に取り組むべき施策は、「災害に強いまちづくり」が 31.0%と最も多く、次いで「圏央道インターチェンジ周辺産業団地の整備」が 30.2%となっています。市民意識調査と比較すると、2 位に「圏央道インターチェンジ周辺産業団地の整備」が入っているのが特徴です。

また、年齢別でみると、30 歳代の職員は「地域子育て支援体制の充実」が 40.3%と最も多くなっています。

【全体】



(N=364)

【参考 市民意識調査 上位3項目】

幸手駅周辺の開発（西口土地区画整理、駅舎整備）	36.6%
地域医療体制の充実	34.1%
災害に強いまちづくり	32.3%

